

高校生が運営する昆虫館・蝶の生態館の実践報告書

千葉県立成田西陵高等学校
教諭 清水 敏夫

1. はじめに

千葉県立成田西陵高等学校では、学科改編や施設の老朽化、施設維持費の減少などにより、使用されていない施設が多く存在していた。貴重な教育財産として有効利用するため、生徒が中心となり、施設を改築・整備し、再利用することにした。

平成 17 年度より「地域生物研究部」を立ち上げ、昆虫館・蝶の生態館の設立を目指した。

2. 施設・設備の整備

(1) 平成 18 年度「昆虫館」開館

昭和 42 年建設の牛乳加工室・搾乳室をリフォームし、生きた昆虫や 500 種類以上の標本を展示。

(2) 平成 20 年度「蝶の生態館」開館

昭和 52 年建設の観葉大温室を整備した。館内ではオオムラサキなど約 10 種類の蝶が見られる。

3. 昆虫館・蝶の生態館の役割と活動

(1) 昆虫教室や学校開放による交流活動

昆虫館・蝶の生態館では、4～9 月第 4 土曜日に一般公開をおこなっている。その他、幼児・小学生を対象に昆虫教室や外部組織と連携した昆虫展示会を開催している。さらにアメリカのオハイオ州の植物園で開催された「日本のチョウチョ展」では、生徒が飼育した蝶が展示された。成田空港が近いということもあり、アメリカの中学生（サンプルーノ市中学校）や台湾の高校生（國立内埔高級農工職業學校）が見学に訪れた。生徒たちは常に自信をもって情報発信できる取り組みや学びの蓄積が欠かせない環境の中から、自らの学びを確かなものにするのができ、活きた体験学習の場となっている。

(2) 地域のコミュニティセンター

地域の方々がボランティアとして参加し、生徒とともに様々な活動に取り組んでいる。子どもたちを地域で育てるという意識が芽生え、地域住民とのふれあいが深まっている。

(3) 自然環境保護活動

貴重な動植物の生息調査を実施し、自然保護活動に関する基礎資料づくりや環境保護活動を実践している。具体的には、印旛農業事務所と連携した生き物調査や、国蝶オオムラサキの保護活動、県立房総のむらの敷地内にある昆虫採集禁止区域の調査、里山の管理やゴミ拾いなどを実践した。

(4) 昆虫を利用したエコ農業

昆虫は生物多様性のバロメーターとなる。しかし、農業による環境破壊は生物相を単純化させ、その結果、絶滅した昆虫も数多くいる。このようなことを繰り返さないように、環境に配慮した生物が生息しやすい農業形態について学習し、実践した。具体的には、カブトムシの糞を利用した資材化研究や、オサムシを使用した生物農薬作出法の開発について研究をおこなった。



昆虫館内にて



生き物調査

4. おわりに

水と自然豊かな環境の中で本校の昆虫館・蝶の生態館等、生徒により運営されているが、さらに向上を目指し、また多くの方々から愛され、地元の誇りとなるよう活動を進めて行きたい。